

会 議 録

会議の名称		第6期第4回小金井市行財政改革市民会議		
事務局		企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時		平成23年7月5日（火）午後3時00分～午後4時49分		
開催場所		市役所本庁舎3階 第一会議室		
出席者	委員	大橋忠彦会長、吉沢幸子委員、雨宮昭一委員、戸張雅子委員、 中野利枝子委員、松井義侑委員、横田真理子委員、林 育男委員、 河村 清委員		
	事務局	市長 佐藤和雄、企画財政部長 上原秀則、企画政策課長 西田 剛、 企画政策課長補佐（行政経営担当） 秋元良夫、 企画政策係主任 中島良浩、企画政策係主事 大久保知佳		
欠席者		池田昌美委員		
傍聴の可否		☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	3人
会議次第		別紙1のとおり		
会議結果		別紙会議録のとおり		
提出資料		添付のとおり		

## 第 6 期第 4 回小金井市行財政改革市民会議次第

日時 平成23年 7 月 5 日（火）午後 3 時

場所 市役所本庁舎 3 階 第一会議室

### 1 開会

### 2 前回（平成23年 1 月 28 日（金）開催）の会議録の公開について

### 3 事務局の紹介

（1）平成 2 3 年度の事務局体制について

### 4 市長あいさつ

### 5 議題

（1）今後の小金井市の行財政改革について

（2）平成 2 3 年度 4 月 1 日現在の職員数について（報告）

（3）平成 2 3 年度行政評価の実施について（報告）

（4）その他

### 6 次回の日程について

日時 未定

場所 未定

### 7 閉会

## 第4回小金井市行財政改革市民会議 会議録

平成23年7月5日（火）

### 開 会

#### 1 開 会

○会長            それでは、定刻でございますので、これから市民会議を開催させていただきたいと思  
います。

                  本日は、このお暑い中をお運びいただきまして、ありがとうございます。本日は、池  
田委員が所用で欠席ということでございます。あと、横田委員は途中で、やはり所用の  
ために退席ということがございますので、お含み願いたいと思います。

                  本日は大変光栄なことに、佐藤新市長がこの市民会議にご出席いただけるということ  
でございますので、これからいろいろなことにつきましてご発言をいただけるとしま  
すので、皆様方も大いに参考にさせていただけたらと思っております。

#### 2 前回（平成23年1月28日（金）開催）の会議録の公開について

○会長            それでは、通常の議事に従いまして、まず最初に、事務局のほうから、前回の会議録  
の扱いから報告をお願いしたいと思います。

○事務局            それでは、報告をさせていただきます。1月28日に開催しました第3回小金井市行財  
政改革市民会議の会議録につきましては、各委員の方から校正をいただきましたものを  
事務局にて集約し、会長に最終の確認をいただいておりますので、既にホームページ等  
で公開済みとなっております。

                  なお、本日、お手元に確定の会議録を配付させていただきました。

                  あと、本日、会長のお求めにより、過去に開催しました第6期の会議録、そして、過  
去に市民会議のほうからいただきました提言書、答申等につきましても、参考の資料と  
してご用意をさせていただいておりますので、ご確認のほうをお願いいたします。

                  以上です。

○会長            では、この件につきましては、既に会議録として処理をさせていただいておりますの  
で、よろしくご了承をお願いいたします。

### 3 事務局の紹介

- 会長 続きまして、企画財政部長の上原さんのほうから、ご報告をお願いします。
- 事務局 本日はお暑い中、また、お忙しい中お集まりをいただき、大変ありがとうございます。  
私のほうから1点ご報告をさせていただきます。  
去る4月1日付の定期の人事異動によりまして、長年、この会でお世話になりました小林が総務課長に異動となりました。その関係で、市民会議の事務局の体制も変わりましたので、ご紹介をさせていただきたいと思います。  
まず初めに、新たに事務局を担当いたします課長職でございます企画政策課長の西田でございます。
- 事務局 西田でございます。よろしく願いいたします。
- 事務局 同じく、事務局を担当します企画政策課長補佐（行政経営担当）でございます秋元でございます。
- 事務局 秋元でございます。どうぞよろしく願いいたします。
- 事務局 なお、企画政策課主任の先ほどご説明申しました中島、それから、企画政策課主事の久大保の2人につきましては、引き続き事務局を担当させていただきます。  
また、私、上原も引き続き担当させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。  
以上でございます。
- 会長 どうもありがとうございました。

### 4 市長あいさつ

- 会長 それでは、早速でございますけれども、佐藤新市長のほうから、ごあいさつ並びに私どもの行財政改革にかかわる部分につきまして、今後の施政方針等につきましてお触れいただければ大変ありがたいということで、よろしくどうぞお願いします。
- 市長 施政方針についても、ここで説明してよろしいですか。
- 会長 はい。
- 市長 4月27日付で市長に就任しました佐藤和雄であります。この間、行財政改革市民会議の皆様方のご議論については、ホームページから議事録をずっと読んでおまして、政策立案の参考にさせていただきました。ということで、私の政策には、一定程度、市民会議の皆様のご意見も程度の濃さというのはあるかもしれませんが、反映されて

いるわけでありませう。

本日は、前回、市長交代に伴って、5月に予定されていたのを1回スキップされてどうか、この時期になったというふうには伺っておりますが、私の施政方針について、概略お話しした後、またご質疑などをいただければと思っております。

資料として、お手元にあると思ひます、6月1日付で書きました施政方針、これは年度の施政方針ではありませんので、包括的な、網羅的なものではなく、私が市長に当選して、どういふ考え方で市政に臨んでいくのかという基本的なものを述べたものであります。

ですから、議会でもこの点が欠けている、あの点が欠けているということは随分指摘されました。ですが、申し上げたとおり、私が考えている状況認識、問題意識、それから基本的な政治姿勢、方針、それから、3つの最重要課題というふうには私が位置づけているごみ処理問題、新庁舎建設、市民交流センターについて、あるいは、やさしいまちビジョン、市役所改革についてということで、問題意識と、そういう政治姿勢を別にすれば、政策については、3つのカテゴリーに分けて説明しているというものであります。

私は、この市民会議でも随分議論されておりましたベネフィットとコストといひますか、プロフィット部門がないわけですから、どうしても費用対効果というものは、そういうある種ベネフィット、便益とそれにかかる効果をどういふふうには判断していくのかということでありまして、この施政方針では、小金井市民の満足度が低いという点について言及いたしました。

小金井市は、非常に都心からも近く、また、緑、水が豊かで、本来住みやすい町ではあるんですけども、住み心地について、あるいは定住の意向については、残念ながら近隣の自治体に比べて、なお大きな開きがある。ここを改善するというのが公共サービスを提供する市政としての本来的なあり方なのかなということでは言及したわけでありませう。

それから、わかりやすい市政ということも強調いたしました。

3つの重要課題の中で述べておりますし、私がこれまで議会でも強調してきたのは、新庁舎建設というものが、単に総合庁舎を造るということではなくて、皆さんご存じのとおり、第二庁舎、賃貸借庁舎で年間2億4,000万円の家賃を支払っています。それがもう18年になるわけでありませう。そうした財政に大きな負担をもたらしているものをやはり早期に解消しなければならないといひて、120億円で買った蛇の目跡地のローンの

支払いも今年度でようやく終わるわけですから、こういう多額の、巨費といえますか、巨費を投じて買った土地の有効利用ということも考えなければならないということで、新庁舎建設について目標年次を定めて、今、それを実現すべく努力しているわけであります。

それから、行財政改革に関係する分野では、私は市役所改革という言葉にしたのでありますけれども、この中で幾つかポイントがあるわけです。例えば、額についてはさほどではないんですけれども、今日の社会経済情勢に照らして、いささか市長の交際費が高過ぎると。多摩の26市の中で2番目だったわけですので、これについても運用を見直そうということであります。

それから、市長の退職金を私の任期については受け取らないということ、あるいは給与の20%カットということも条例案を提案したりしましたが、まだ可決を見ているわけではございません。これは何か数値に連動して20%カットということよりも、ある種、これまで以上に行財政改革に取り組むという、市職員の、あるいは市民の方の意識を高めるための姿勢を鮮明にしたものであります。

私は市役所の人間でもありませんで、ずっと民間企業で25年間、あるいは、その前の企業では2年足らず働いてきました。専ら民間の世界で、禄をはんできたわけです。その観点からすると、やはり、市の仕事というのは、スクラップ・アンド・ビルドというものをしなければならないだろうと。それは、この施政方針にも書いてありますけれども、何を市の本来的な、最後までやるべき仕事としてやるのか、あるいは、これは民間なり、NPOにゆだねていく、これを、協働という言葉で表現していいと思いますけれども、小金井市市民協働のあり方等検討委員会というのが現在、昨年度と今年度、審議をされておりまして、今年度末には答申をいただくことになっておりますから、そこで初めて協働のルールだとか、あるいは契約の仕方だとかが少し見えてくると。そうしたものを取り込んで、行財政改革に臨んでいくべきであるということを考えているわけであります。

この間、ずっと市民会議をやられてきた皆様にとっては、釈迦に説法なのかもしれませんが、第3次行財政改革というものがもう既にスタートしております。ただ、ご承知のとおり、なかなかうまくいっていない分野というのも正直ございます。それをどのように進めていくか。あるいは、第3次行財政改革の世界よりも少し踏み出たところで新しい行革というものができるとどうか、そういうものも視野に入れながら、今

後、市政運営に当たっていきたいと思っています。

簡単ではありますが、私のあいさつ及び施政方針についてご説明申し上げました。

○会長 どうも大変ありがとうございました。

それでは、ご質問などがございましたら、どうぞご遠慮なくお願いいたしたいんですが。雨宮先生、いかがですか。

○雨宮委員 雨宮と申します。よろしく願いいたします。

○市長 よろしく願います。

○雨宮委員 この会議でもずっと言うておりますように、小金井市の戦略的な生き方としては、教育というか、教育がきちっとできるところで、しかも、何か不動産を持っている老人たちじゃなくて、どちらかという、共稼ぎで担税能力のある、そういう人たちがいっぱい、いつも来るようなところにしなきゃいけないということではないかと思っています。一方で、相当、財政が悪化していたところで、そこは一方で直さなきゃならなくて、でも、財政はある程度よくなってきているわけだから、そろそろ、どういうふう教育とか、そういうものをより充実させていくかということを政治的に考えて、行財政改革をもう一度組み直す必要があるというのは前からずっと言うていて、多分、それは前の市長も、今度の市長もあまり変わらないかもしれませんと思っています。それだけです。

そのことについては、市長のほうから、そういう考え方について何かお考えがあったらお聞かせ願えたらありがたいんですが。

○市長 雨宮先生がそういうご指摘をされているということ、会議録の中でも承知しておりますし、半ば我が意を得たりという思いで読んでおりました。

2009年度の決算では、多摩の類似団体というのが6市ございますけれども、市民1人当たりの教育費支出というのを見ると、6市の平均値を100とすると、小金井は67でありました。福祉はたしか89だったか、4だったか、80%台でありました。これは若干いたし方ないというか、都市整備にかけるお金というものが十分あり、中央線の立体交差事業にかけるお金というのものもあり、一方で、小中学校の耐震工事というものが一段落ついたところで、おのずと教育費という予算が、その部分、少なかったんだろうと思います。それにしても、やはり小金井のよさは子育てしやすいところであり、あるいは、公立小中学校の子どもたちの学力水準の高さでありますので、その辺のところを最大の売りという言葉が軽いですが、良さでして、引き出すような施策を今後ある種戦

略的にやっていかなきゃならないと、そういうふうを考えております。

○会長

私、1点よろしゅうございますか。

新市長として、さっきの話で、小金井市民の満足度があまり高くないというあたり、ある意味で、私も非常に我が意を得る部分なんですけれども、どうも近隣の都市に比べると、何かいろいろなポイントにおいてちょっとずつ落ちるんですね。例えば道路の舗装の状態を見ても、何か仕上がりが悪いとか、それから、何かを外へ行って食べたいと思ってもうまい店がないとか、ショッピングをする人も、本当にショッピングしようとするれば立川か吉祥寺に通って行って、もっと行けば新宿ぐらいにみんな行くというふうになっています。その原因をいろいろ、私も市民会議のこういう仕事をやらせていただいて、考えるんですが、非常に極論して言ってしまうと、過去、十何年以上前から今に至るまでの累積で、ほかの周りの市に比べると法人税がないというような意味で、財源がちよっと少ないというのがありますが、そうはいっても、それなりに全国レベルで立派なものだと。

にもかかわらず、なぜなんだというのと、どうしても配分の上で、いろいろなステークスホルダーがいるとは思いますが、単純化して、市の職員の方と市民というふうにすれば、職員の方のほうに厚くて市民に薄いという形が、いろいろな形で出ている。特に昔は、経常収支比率なり、人件費比率なんかもかなり悪かった。最近ようやくよくなってきたといっても、こういう町の景観なり、町のストックというのは累積ですから、そういうところで積年のツケが出ている。何も対立を作ろうという意味ではないんですけれども、やはり配分上の市民と職員ということを、いろいろな意味で考えていかなければいかんのかならうかと。

逆に言って、その辺のところは満足度の低いとか、満足度を上げるとかという、1つのルートといいますか、政策の手段になってくるんじゃないかなという感じはするんですけれども、いかがでしょうか。

○市長

私は先ほど申し上げたように、民間で暮らして、民間企業におりましたので、やはり顧客サービスというものを考えると、顧客の満足度を引き上げる、あるいは、満足度の高い商品を開発するというのが一番のポイントだと思っているわけでありまして、公共サービスの提供者が、必ずしも全く同一ではないと思うんですけれども、どの辺が定住志向、あるいは住み心地に影響してくるんだろうと。

これは上原部長のほう詳しいかもしれませんが、長期構想を作るために意向

調査をしたわけですね。その中で、要素分析というのもやってあります。例えば、公共施設の問題ですね。そこまで具体的に書いてあったかどうかちょっと記憶しておりませんが、市民の間には、図書館が非常に狭隘である、これも周りの市と比べれば随分と違うということでありまして、そういうことが何によってもたらされたかという、大橋会長の分析というものも一定程度あるのかなと。すなわち、一時期、人件費比率が非常に高かった時期があって、それが社会資本なり、公共施設の整備に回されなかったという、そういうことがあったと、私も聞いております。

いずれにせよ、近隣市といっても、それぞれの財政事情というものが違うわけなので、なかなか同一には論じられないと思いますけれども、小金井市の持っている、数字ではあらわれないかもしれないけれども、住み心地のよさというものを実はもっと引き出す必要があるのではないかなと。つまり、公共施設というハード部分だけじゃなくて、端的に言いますと、ある種、吉祥寺とも立川とも違う、のんびりとした雰囲気の中で一定程度便利さとかがあるということではないかなと思っています。

ちょっと話がそれるようで申し訳ないんですけども、財政資源の配分の上で、職員に厚く市民に薄いという、そういう不信を市民の方が持たれていることがこの結果になったのではないかというふうに言われておりますけれども、私も同時に、ちょっと言葉を選んで話さなければなりませんけれども、例えば賃貸借している庁舎の問題など、財政が本当に合理的に使われているのかという疑問を持たれる市民の方が、こういう調査結果にもひょっとして反映しているのかもしれないなという感想を持つ次第であります。

○会長                    どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょう。

○松井委員                では、私、いいですか。

○会長                    どうぞ。

○松井委員                この委員会のメンバーは、この行財政改革市民会議そのものに対して、新市長がどこまで、どういうふうにお考えなのかと、我々も非常に戸惑っていますし、残りの任期という形が来年の3月までとすれば、あっても、あと2回ないし3回の会議のペースしかないと思うんですけども、市長が何かをある時期にまとめてもらいたいという期待をされるのか、それとも、あと幾らでもないから流していくのかなというふうに市長は思っておられるのか、その辺のところはちょっと我々としては推測しかねて、対応にも、困っているとは言いませんけれども、迷っているというところがあるんですが、その辺

について、この行財政改革市民会議について、市長としてはどういうふうにお考えで、これから対応していかれるのかなということについて、若干でもお聞かせいただければと思います。

○市長

先ほど申し上げたように、行財政改革市民会議のこれまでの検討、あるいは議論の結果というのを会議録の中で読ませていただいております。今年度については、外部評価の施行についてご議論されていたと伺っております。

すなわち、小金井市の行政評価というのは、内部評価になっております1次、2次、3次になっている評価であります。事業仕分けという言葉も、民主党政権の後、随分議論と申しますか、関心呼びまして、ある種、前市長の問題意識がそのとおりであったかどうかはちょっと確認しておりませんが、やはり、そういう外部評価というものを市民会議でやっていただきたいということだったと。

私は、事業仕分けというのは、国でもやり、それで現在、自治体でもやっていますけれども、やるのであるならば、非常に慎重な配慮というのが必要だろうと思っております。というのは、それぞれご存じの仕分けをする人も随分と勉強はされておりますけれども、そこに引き出されてこられた担当課の人には、矢継ぎ早に言われて、ある種、白日のもとにさらされて、一方的な糾弾とは言いませんけれども、それでばさばさと。一応、それで廃止とか何とかというふうにやられていく。それがその後の予算に反映されているかという、必ずしもそうでもなかったりすると。

ほかの自治体の例を見ますと、これもどこまで正確な認識か、ちょっと自信がないんですが、例えば行政側がこれは切りたいというものを、実はそういう事業仕分けに出してきて切るという、そういうやり方をしているというふうには指摘される方もいらっしゃいます。

私が考えていたのは、内部評価があります。ただ、その内部評価だけで十分なのかどうか、外部評価にある種、市民参加、市民目線で、さらに、それをよりきちんとしたものにする、そういう仕組みについて検討していただけないか。すなわち、ある事業について、この場で外部評価ということで切っていられると申しますか、裁断していかれるのではなくて、外部評価あるいは市民参加による評価というものを取り入れるとしたならば、それはどういう方法が妥当なのか。一方で、行政内部の内部評価というものがあります。一方で、では、ある意味、市民参加による外部評価というものは、現在、仕組みというものはないわけですから、その仕組みについて、これまで議論されてこられた

学識の方あるいは一般公募の方から見て、どういうやり方が妥当なのか。それについて、残り2回あるいは今日も含めて結構なんですが、一定ご議論いただいて、外部評価のある意味枠組みについて、ここでこういうやり方はどうかというご提案をいただければ大変助かるなという、そういう思いで今日は参ったわけです。

○会長                    ありがとうございます。

○吉沢委員            今、伺ったばかりで突然ですけれども、市長がそういうことでしたら、ぜひやれる範疇で、学びながら、ご協力していきたい。枠組みとか、どういう形がよいのかというところは、まだまだそういう目線で来ておりませんので、他市のことも知らないし、今日言われて今日ご意見申し上げることもできない。もしそういうことでしたら、学びながら皆様とともに進んでいけたらいいのかなと思います。

○会長                    どうぞ、林さん。

○林委員                満足度の問題ですけれども、私も高度成長期にまちづくりにずっと参加してきて、そういう満足度の問題なんかも、外国の都市なんかとの比較で勉強したことがあるんですけども、どうも、日本人というのは、例えばフランスあたりの新しい団地なんかで見えていますと、満足度が70とか80%ぐらいあるのに対して、日本ですと満足度が二、三十%にとどまっている。当時にしてみれば、新しい団地に入って一番希望に燃えて満足しているはずなのに、二、三十%しか満足している人が出てこないんですよね。そういうようなところは日本人としての感性というか、そういうのがあるんじゃないかな。

だから、小金井なんかも小金井公園なんていったら、全都民の垂涎の的なんですね。野川公園もありますね。ああいうものすごい財産を抱えているわけですから、そういうふうなものをもう少し積極的に売り出していくとか、何かそういったようなものが必要なんじゃないかなと、こんなふうな気がします。

正直なところ、この行財政改革市民会議も市長さんが代わったら用済みかなと思っていたら、行政の安定性、継続性ですか、そういうふうな観点から選ばせていただいて、どんな市長さんになられても役に立つような議論をずっと続けてきたつもりでありますので、これはそのまま続いてもいいんじゃないかなと、私自身はそんなふうに感じています。

○会長                私ども委員を代弁して申し上げますと、ほとんどの人はちょうど6年目を迎えております。ということは、通常、大体2期ぐらいやるのが通例かなということで私ども参加させていただいて、ところが、もう1期という話になって、その3期目の1年目は去年

終わって、今、ちょうど2年目になっています。ですから、やるとしても、この1年で大きな節ができるというものと思っております、その中でどういう仕事をするかというあたりについても、今、市長のほうからお話がございました。実は皆様方のところにお配りしたメモは、何か佐藤市長と事前にばっちり打ち合わせしてあるような感じの資料でありまして、本当は何も打ち合わせなんかしているわけじゃないですよ。要するに、これから残りの2回の会合の中で、何をしていくかということについて、今までの市民による行政評価の議論をまとめるのではないかと。まとめるこんな感じかなというのを作っております。これをもとに後ほど議論も進めさせていただきたいと思っておりますけれども、今、ちょっとお話し申し上げましたのは、今後の議論をどうするというより前に、私どもの今の気持ちとしては、こういう、今言ったような状態にあると、そういうことをご理解いただきたいなと思って申し上げた次第です。

○市長 なるほど、わかりました。

○会長 ほかにどうですか。戸張さん、いかがですか。

○戸張委員 東町に住んでいます戸張と申します。よろしく申し上げます。

前提として、今、スーパーやいろいろなところへ行っても、どこどこさん家のナスとか、キュウリとか、生産者を表示して、生産者と購入をするお客とが顔の見える関係というのが大分行き渡っています。職員の方が全部ネームプレートを下げていらっしゃるの、庁舎内でお会いして、いろいろなお話を、雑談や何かにしても、今日は何課のだれだれさんにお会いして、こんな話をしたということを日記に書くことができるわけです。職員さんはそれでとてもいいと思うんです。

そこで、市長さんについては就任されたばかりで、まだ顔の見える関係は無理だと思っておりますけれども、具体的なこととお話ししますと、7月1日、2日、3日と、東センターで市民まつりがありました。そこへ、市長さんがお見えになっていたようなんです。私は、高齢者と第2月曜日の午前中に季節のお料理を作って食べる会を手伝っています。元気会といいます。その元気会で、2日の土曜日に下ごしらえをして、3日にお弁当を作って、お赤飯と散らしずしと煮物の詰め合わせを売りました。出入り口で売り子をやっていたときに、市長さんが前をとお出になられたようです。「あれ？ちょっと見かけた顔だけど、どなただったかしら」と話をして、「そうそう、新しく市長さんになられた方だわね」というようなことでみんなひそひそ話をしたんです。せっかく来られたのなら、それぞれ実行委員会形式でやっているお祭りですから、そのお祭りはどんな

団体が参加しているか、資料を手に入れられたら、一人一人そこにいらっしゃる参加団体の代表者に名刺をお渡しして、「新任の市長です」とあいさつされなかったのは、ちょっともったいなかったなど。まだ、市長さんがどんな方かご存じのない市民は大勢いられると思いますよ。ですから、これからいろいろな催し物がありますけれども、そのほか、私がかかわっている女性団体の総会を開いたときにお見えいただけなくて、メッセージもいただけなかったということがありました。ですから、お忙しいとは思いますが、努めて市民と顔の見える関係を築き上げてほしいと思います。

○市長 おっしゃるとおり、もったいなかったなど思って、今、話を聞いて、せっかく行ったのに申し訳ありませんでした。来年はぜひごあいさつさせていただきます。

○戸張委員 まだいろいろありますよ、これから。

○会長 中野さん、いかがですか。

○中野委員 私も戸惑っておりました。私が、小金井市でかかわっているボランティアは主に健全育成と薬防協など全て子どもに関することなので、子ども中心の考え方になってしまうところがあると思います。

東北大震災のために起こった放射能汚染について、保護者達の不安など耳にしております。そんな折、先月には数か月空席だった教育長が議会で選任されてほっとしているところです。

あと2回の会議の中で、どれだけ役にたてるかなという不安もあります。でも、できる限り皆さんのご意見を尊重しながらも、自分なりの意見を持ってやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○市長 ちょっとPRを1つだけ。

○会長 どうぞ。

○市長 今、中野さんのお話があったのに触発されて、今度、7月26日に市長とのタウンミーティングというのを上之原会館で午後7時、夕方からやります。テーマは子育て・子育てであります。先ほど言われたような放射能の問題だとか、あるいは今後の小金井の子育ての施策について、どういうふうを考えているんだということに関心のある市民の方、親御さん、さまざまな方と率直に意見を交わしたいと思っておりますので、お時間があれば。

以上であります。

○会長 横田さん、どうぞ。

○横田委員 横田と申します。本当に地域の井戸端会議をしているような、そういったお話を代弁するような形で参加をさせていただければなと思っております。

今回の市長の施政方針の中で、3ページの一番下のほうに、「今回の市長選の結果は、いわゆる『政権交代』に近い事象だったとみなされています」というところから、4ページになりまして、最後の「変えるべきところは大胆に見直していきたいと考えています」というような文章で示されているんですけども、具体的にというか、こういうところを変えていくということは今後になると思うんですが、やっぱり今まで5年間やってきたことを見直して、大胆に見直すべきところに引っかかってしまうことがあるのかどうか、そういったところも少し、この施政方針を読みながら、あと残された期間の中で、残っているこの事業仕分けについては、学童の問題とかが残っていたかと思うんですが、やっぱり今までの進めてきた考え方と、市長の今回の学童の考え方について、街頭演説等で聞いておりますと、若干違うかなというところがありましたので、こういった話し合いの場をより活用してお互いに、何しろ市民が本当に一番よかったと言えるような結果になるように、どっちにするとかということではなくて、市民が望む結果に私たちのこの会議ができればなというような思いで今日は臨ませていただきました。ちょっと所用で席を外させていただきますけれども、このことが本当に新しい市長にかわっていい会議ができればなと思っております。よろしく願いいたします。

○河村委員 では、一言だけ。商工会のほうの関係やっています河村です。私どもはいろいろな意味で、これから市にいろいろな要求をするのではなくて、市民の人たちが自分たちでどうやってまちづくりできるかということが一番大事じゃないかと思うんですね。

今までですと、皆さん、市にいろいろな意味で、これをやってくれ、あれをやってくれということをお願いしながら、いろいろなことをやってきたんですが、私ども、昨年から商工会、そして法人会、そして農工大の三者で集まりまして、これからやっぱり、自分たちの町は自分たちで何とかしようよという勉強会を実は始めました。

そういう意味で、できることであれば、市のほうからもそういう担当の方にぜひ来ていただいて、現状、我々がどういう勉強をして、どういう話をしているのかというのを聞いていただいて、やっぱり何事やるにもお金がなかったら何もできないわけですから、皆さん、いろいろなことを見ますと、あれをやる、これをやると言っても、要するに、どうやってその財源を得るのかという話は1つも出てこないわけですね。だから、そこが一番、行革についての物事を切るだけの話じゃなくて、どうやってこれから町の

中を、どういうお金を、税金をいただいて物事ができるかというのを含めて、やっぱりこれから見直していかないとどうにもならないんじゃないかと。今日は商工会で、市長にもいろいろな話が出たと思いますが、商工会としては、そういうイメージの中で今、動いていますので、どうかそういう意味で、ご一緒にいろいろなことができて何とかしてほしいと。

それで、最近、目につくのは、町の中を旗を持ってごみ拾いをしている団体がいるんですが、あれはどういう団体だか把握されているんですか。

○市長 どのあたりですか。

○河村委員 町をきれいにするという旗を持って。結構年配の人がみんなやっているんですけども、市で何か、そういう部分を把握しているのか、それとも一般の団体がやられているのか。

○戸張委員 駅頭でもやっていますよね。

○河村委員 駅、朝早くは、ほかの団体がやっているのはわかっているんですけども、最近、昼間、この暑い中をいろいろなところを回って動いているのが。

○戸張委員 のぼり立ててね。

○河村委員 のぼり立てて。それがどういうあれなのかなという、また何かの機会があったら教えていただければと思います。

○会長 市の事務局でも、まだすぐにはちょっと答えられないようなので、別途また、次回に教えてください。

○事務局 はい、わかりました。

○会長 それでは、皆様のほうから、いろいろ貴重なご質疑、ご意見を出していただきまして、いろいろな意味で、市長のお考えを本当に深く理解できたと思っております。

さっき、早口で紹介した部分がございましたけれども、市長のお考えと、これからの作業として準備していることが、あまりにもストーリーがうまく繋がってしまっているので、興奮して言ってしまいましたけれども、皆様方のお手元に、「市民による行政評価について（骨子）」と書いたものがございますけれども、要は、今日を含めて3回、あと自由に使える会議が2回ということがございますので、その間にどういうことをやっていくか。これは前回は議論は一部しましたけれども、もう少し考えを進めてみますと、せっかく私ども、集中して議論をしてきて、それは会議録にもきっちり載ってはいるわけですが、それを読んで、これから後の人に理解してくれと言っても、それはちょ

っと無理だと思います。しかも、我々の任務というのは、この行財政改革の大綱にもありますけれども、それでいけば、市民評価をこの市民会議にやってもらったらどうだとは書いてあるんですが、これ自体について、平成22年、23年というのは「検討期」であるということなので、今、我々は検討しているわけです。

それで、試しのテストラン、試行は、来年の24年からというふうにもなっておりますだけに、ちょうど今年のと2回の市民会議で、せつかくこれまで議論をして、かなりお互いに見えてきた行政評価の意義とか、難しさとか、あるいはフレームはこういうところなら実施していけるとか、いろいろなことが出てまいりましたので、それをまとめることに意義もあるし、大綱等でこの市民会議に与えられた任務を果たしていくということにもなるのではなかろうかということで、これは今日の朝、大急ぎで作ったんですけれども、これを簡単に、五、六分、あるいはもうちょっとかかりますけれども、ご紹介させていただければと思います。

市民による行政評価について、これは仮題です。その骨子なんですけど、本報告の問題意識としては、市民評価について、我々の市民会議としては、相当意義のある検討は行ってきたんじゃないかならうかと。それだけに、本年度以降の市民会議等でも参考になるような意見の集約をしておこうというのがポイントです。

その筆記の順番、ここにも書いてありますけれども、まずは新市長のお考え、どういふところにポイントを置いて、何をやっていくかということは、今日お話をいただいたわけでございますし、そういうものをもとにして、まず第1章といいますか、こういう形で載せたらどうか。

2番目には、市民評価の現状と課題ということで、1つには、小金井の行政評価の現状がどうなっているか。これは先ほど市長からもご指摘がありましたけれども、内部評価にとどまっているということがありますし、それから、顧客優先とか、顧客第一というような形でもないし、企業経営的な発想なり、手法というものにも残念ながら欠けている。それから、財政効果も大きく期待できるかといったら、なかなかそうもっていない。それから、我々も苦しんだところですけども、評価基準が不明確なので、なかなか「やれ」と言われても、どこからどう手をつけていいかわからないと。という問題点があるということは、やっぱり問題の所在として言っておく必要があるのではなかろうかと考えます。

ただし、第3次行財政改革大綱の中でも、市民評価の位置づけというのは、平成22

年と23年は検討期だと。来年が試行期だと。25、26年あたりから実施していくというペースで、我々としては仕事が与えられているということだと思います。

それから、この同じ固まりの中で、いわば第2章の3つ目のブロックとして、ほかの市の現状はどうか。これは事務局のほうで相当詳しく調べていただきましたので、それをきっちりもう一遍、再整理、再分析して載せていく価値があるのではなかろうかと。これは数字を間違えているかもしれませんが、26市中8市程度が、行政について市民の参画できる形をしっかりと作っている。それから一方、国のほうでは、事業仕分けについて、ちょっと役割が低下してきているという事実があるということだと思います。

次に、行財政改革市民会議への期待がいろいろな形で寄せられていることも事実です。これを整理してみれば、この市民会議が市と、あるいは市長と市民との、これが多様な接点の中の大事な1つということと言えるだろうと。やはり、市役所の外の目とか、あるいは声とか、空気というものを市政の中に入れていくということは意義があるだろうと。それから、前回の言葉の中にありましたのが、気づきの場といいますか、これもやっぱり新しい視点を持ち込むことだと。もう一つは、一定期間、私どもが市民会議の委員としてやってきたということで、一般の市民よりは、ほんの幾ばくかですけれども、市政というものについてのなじみも出てきている。そういう意味でも、検討の実績とか経験を生かしていくという形で、行財政改革市民会議というものが何らか貢献していくという意味はあるだろうと。

とはいえ、これも同じ、私どもの会議ですが、限界があるということも再々言われておりまして、1つには、広範に600とか700とか、いろいろな事業を市役所としてやられているわけですけれども、これについてのわれわれの専門性は不十分であります。また、私どもの置かれている立場というのは、市長の諮問機関ということでありますから、当然、大いに提言しても、すぐ明日から実践するというようなものではないということなんです。そういう限界も大いにあるということは承知しておく必要があるだろうと。

その上で、前回は、採決したわけでも何でもありませんけれども、空気としていえば、何らかやる価値はあるなというところまでは来ていたわけですが、市民評価をやる場合は、その対象となり得るもの、今までいろいろな形で皆さんからのご意見をいただいていますけれども、例えば評価シート自体の改善で、いいことだけ書いてあって、その他のコストが幾らというのがわからなければ、それは本当の評価になりません。そういうベネフィット・バイ・コストというようなことを入れるとか。

それから、今日、議論の中に出ていますけれども、河村さんから指摘がありましたけれども、削減指向だけじゃなくて、もっと拡大したほうがいいものも遠慮なく、ダイナミックに提言していくと。

それから、私どもの代の中でかなり議論をしてきたけども、ちっとも前へ進んでない話として再任用制度の問題があると思います。これはご案内のとおり、正規の職員の方が定年退職した後、かなりの人が再任用制度の中で雇われて、その間は要員もその人が代替しているからいいけど、その人がやめたら、また正規のバリバリの新人を入れると。これをやられちゃうと、私ども、何度も提言していますけれども、毎年、今ですと30人から40人ぐらい、いわゆる団塊の世代の人がいて、その人は定年退職するわけですね。職員が大量にやめてるときに新規採用を抑えれば、生首が飛ぶなんていう、そんな物騒なことをしなくても、だんだん要員が合理化されるわけですけど、もうあと二、三年たつと、そういう団塊の世代は全部卒業しちゃうわけで、その後で、仮に要員が多過ぎるから20人切ろうとか、10人切ろうといったってもう手おくれで、遅くなっちゃう。しかも、この小金井の再任用というのは非常に特殊で、一遍やめたら、普通の市ですと、その分、そのままの要員にはしないのに、小金井はすぐバリバリの新人を入れちゃうと。それから、再任用でおるときも、要するに定年退職後も、どこに配属されるかといったら、自分の今までやったところにしか配属しないということで硬直的であって、ほかに人が必要なところがあっても行かないとかいうことは、我々も相当研究してわかってきているわけなんですけど、そういう問題については、改めて仕立て直してもう一遍出すような感じですけど、やはりわれわれとして提言する価値はあるのではなからうかと。

ただし、これは全部我々の時代でやるということじゃなくて、今後やる人がテーマとしてどう判別するかにかかってくる。

3番目は、これは私ども、あんまり勉強してませんが、監査委員からの指摘があったという受益者負担について。小金井の市内での洗い出し、あるいは見直しというのが不足しているという話がせつかく出ているので、もちろん、担当課としても担当の部としてもやられるでしょうけれども、この市民会議としてもやる価値はあるなど。やったらおもしろいですねとか、意義がありますねということです。

それから、市民生活の中で気がつく問題点というのは、あれだ、これだって、皆さん、何十年も小金井に住んでいるわけですから、その中で気のつく点も大いにありということから洗い出していけば、あんまり難しい議論をしなくてもポイントは出てくるんじ

やないかと思えます。

それからきょうの議論でもありますけれども、市の行政サービスの範囲とか、それから市民と協働でやっていくとしたら、広い意味ではどこまでが市の仕事であり、その予算の配分なんかもどうするんだとかいうようなところから議論していけば、この約700ある仕事を全部洗い出せるというわけじゃありませんけれども、そういう物差しにひっかかって、こうすべきだ、ああすべきだということも出てくるんじゃないかという事です。この会議の会長として、今後の進め方について、もちろんこれはきょうの朝作っただけのたたき台ですから、どんなストーリーに変えても結構なんですけど、こういうものを作って、それで次の代にお渡ししていくと。それは本当に使っていただけるかどうかは別に、その方々のお好みですから構わないんですけど、せっかくやった議論を価値のある形で残せたらというのが、今のご提案でございます。

ということで、一言付け加えますと、例えばという意味で、こういうようなレポート、これはおそらく、全部作っても10ページぐらいで、あと二、三枚、付表がつくというようなレポートになるんだと思うんですけども、そういうものをですね、仕上げていく。それで、先ほど事務局の方に聞きましたら、例えば、日程的に言えば、今年、いわば市議会の間を縫ってやっていくという点で言いますと、10月の下旬から11月ぐらいですか、そのあたりでもう一度市民会議に集まっていただいて、検討、議論をします。最終の仕上がりは、年が明けて来年の1月ぐらいにそれを仕上げて、市長にレポートとして進呈するという形はどうかということなんですけれども、それについていろいろ、こういうことはやるか、やらんかという議論もありますし、それから、中身として大事なことが抜けているじゃないかというお話もあるでしょうし、何なりと結構ですから、ご意見いただきたいと思えます。

○松井委員

いいですか。市長、今の話の関連で、ここの資料の2で、職員数が1,024名から700くらいまで減ってきているのがありますけど、多分、市民会議で私が一番最右翼で、人数、職員数は落とすべしということをずっと主張してきたんですね、ここ5年で、大橋会長が言っているように、30人、40人定年退職をする時期は、もう3年ぐらいしかありませんよ。ここでやめた人を補充していくと、あとは退職する人がいなくなっちゃう。そういう意味で、機会を逃さないで、人員削減のペースは、今は頑張っていたきたいということ、何回も重ねて、前の市長にも事務局にもきつく申し上げました。

確かに、小金井は教育なりソフトなりに対する投資が足りないと言われるのは事実だ

と思うんですけども、これは1,000人の職員が650、700になるために、1人平均、2,000万とか3,000万という退職金をずっと払ってきたわけですね。結局、1,000人にボーナスと職員を膨らませたことが、ここ20年で数百億の人件費として小金井市から消えているわけです。もったいないことをしたなと思いますけれども、これはいつかのだれかの市長のときにやられたわけですけども、一度ミスると、数十年、元に戻るのにお金も時間もかかると。そういう意味では、最後の仕上げのところへ来ている。もう、チャンスはあと3年しかないというところで市長になられたわけですから、我々のこういう思いを、ぜひ引き継いでというか指揮をしていただけたらいいなというふうに感じます。それも非常に遅々として、このままでいいのかなと思いつつ、今月も終わり、来月も終わるといふことでいいのかなという感じを持っていますけどね。

○会長 その関連で、事務局のほうで、職員数のデータを用意していると思いますが。

○事務局 そうですね。今話題に出ましたので、簡単に資料の説明、ここでさせていただきます。

事前の通知と一緒に送らせていただきました平成23年度4月1日現在の職員数につきましては、こちらの資料、グラフと表という作りになっております。基本的に、平成6年度から平成23年度までの小金井市の正規職員数の実数の推移と、そちら、行革の計画等での計画数を比較したグラフになってございます。下の表につきましては、主な増減の内訳を記載した表となっております。今、最新の値としましては、平成23年4月1日現在で、704名となっております。第3次行革大綱では、計画数値699人と掲げておりましたので、現在、計画よりも5人超過した形が実情となっております。

簡単ではございますが、以上、資料説明とさせていただきます。

○企画財政部長 ちょっと補足をさせていただきます。今、松井委員からお話がありましたが、退職者のピークはどうかというお話でございました。お手元に提言書というのがいっていると思うんですね。ここに示されているように、昨年度の22年度は46人が退職してございます。23年度、下段の表ですと34人、24年度は30人、25年度が25人ということで、ここから3年ぐらいは、おおむね20人を超える数値で移行して、その後は12人、7人ということで、1けた台に移っていくという状況があるところでございます。

○会長 一言で言うと、大きな判断を下すチャンスというのは、ある意味ではもうあと3年しかない。当然、それ以降は要員を減らそうとすると生首が飛ぶか、あるいはコストが上がるか、どっちかしかない。今まで、我々も民営化とかって言うことは言ってたんですけども、この波が終わっちゃうと民営化もできないんですね、実は。もうそれぞれの

仕事に役所職員がいるんですからね。その職員がいる上で民営化すれば、ダブルに経費を払うことになるわけですから、それもできない。そういう状態になるので。

○松井委員　　すみません、もう一言。私、広島県の呉の出身なんですけれども、呉で高等学校を出まして、同級生と会いましたら、呉市の総務部長をやったのと副市長をやったのがいまして、それで、市の合併があり、5つの町が一緒になって、職員も議会も相当な勢いで、ここ数年、合併して5年ぐらいですけど、減らしているんですよ。どうやって減らしているのということで話を聞いたんですけども、もう、文科系は文科系を、技術系の人は技術系というような使い方も、もうしていないと。技術系の人も、人が余れば総務にも行くと。そしてどんどん人数を減らして、合併効果を上げているということを言っていましたけど、小金井市の職員は、経理課の人は経理の仕事がどんどん機械化されて仕事が減ってきてても、その人は全然違う職場には動かせないんだというような話をちょっと聞きましたけど、今どきそんな職場、あるのかなという感じがします。上原さん、これはどうなんですか。

○企画財政部長　松井委員からのご質問にお答えさせていただきたいと思うんですが、1点、労使の関係がございまして、組合との関係がございまして。管理運営事項ということで一方的にするということもなかなか難しい状況がございまして、やはり話し合いの中で一定の着地点を見つけていくという、前段の交渉が必要です。したがって、急にそういった方向にかじを切るということはなかなか難しいという状況にあります。

○松井委員　　もうよその市はそういう段階は終わっているんですよ。未経験の職場に転換されるのは困るということは言わせないということで、話し合いがベースでできていると。だから、どんどん人事異動をやりながら、減ってやめた人のところへ、多い人をどんどん移していく。技術系が文科系に行くんですよ。そういう時代なのに、小金井としては、いや、組合との話し合いがついてませんからちょっとというのは、これはおかしいですよ。

○会長　　さっき言いました職員と市民との配分闘争じゃありませんけれども、いろんな、要するに市のストックというか、財源を、職員に厚くするのか、市民に適正に配付するのかという、大基本のところ。

○松井委員　　そう。今までは職員に非常に甘かったんです。

○会長　　ある意味ではほぼ昔のままであって、ほかの市に比べると1周以上まだ遅れているような感じがして、吉沢さんが会議が始まる前にお話ししておられた点などどうぞ。

○吉沢委員

私は主婦でございまして、あまり数字的なところには弱いんですけども、たまたま、これは2010年、昨年12月29日になりますか、新聞にラスパイレス指数に関する記事が出ていました。小金井、狛江、武蔵野、三鷹、調布という大きな見出しで、武蔵野5市の給与は高過ぎないかというような記事が載っていました。その中で、最後のほうに、私がこだわっているのは、今回の調査では、給与を実際の役職より高いランクにかさ上げして支給する、“わたり”についても公表をされ、武蔵野地区では、武蔵野市と小金井市にわたりの実態が残っていることが指摘された。両市とも、現在はわたりという制度は廃止はしているけれども、過去にかさ上げされた水準のままの職員が、武蔵野市では15人、小金井市では83人がいるということなんですね。

私、これを読みまして非常にびっくりしました。前回の話でわたりはすでにやめたと聞いておりましたが、改善にむけて少しでも動いているのかと思っておりました。今までやってきたことでも、悪しきことはやはり改善する必要があるんじゃないかなと思うんですね。松井さんが本当にご心配なさって、少しでも人を少なくしてやっていけたらいいんじゃないかというご提案をずっとなさっておられましたが、私もそれは非常に同感ではあります。けれども、福祉を一生懸命、自分のライフワークでやってきたものですから、その年度に必要とする専門職は入れなきゃいけないんじゃないかとか、あまり人をカットするというのも、市のレベルが落ちる可能性があるかなと思ったり。この行財政改革市民会議に、途中から参加させていただいていますが、このわたりというところの改善がなされないと、あるいは段階的にでも少なくしていくよう取り組んでもらわないと、市民に申し訳ないような気がしています。地域で一生懸命働いている、NPO法人、仲間と少しでも地域のために役立つような活動をしよう、やってこうね、続けていこうねといっている立場からしますと、このわたりというところの問題について、とてもこだわるんですね。あと3年か4年で、このわたりの実態はなくなるのかもしれないですが、いかがですか。どれぐらいこのわたりというのは続いていくんですか。

○企画財政部長 私の方から。若干、専門分野から外れるものですが、的を得ないところがあるかもしれませんが、お答えをさせていただきたいと思います。

まず、小金井市の職員ですが、数のほうは先ほどの表に出ておりましたが、平均年齢はどれくらいになったかといいますと、ことしの4月1日では40歳を切りまして、多分、多摩地区で一番若いと思います。39.何歳かになったかと思われまして、したがって、全体的な人件費ですが、過去、昭和51年には45.2%が、市の全体予算の人件費に回って

いたという時代がありましたが、今年の予算、それから昨年度の決算を見ると、20%を若干切る程度になってきております。そうすると、全体的な額はどうかといいますと、約70億くらいです。一時は100億を超えていました。それでは今は何が一番多い支出かといいますと、扶助費のほうが人件費を上回っています。扶助費といいますのは、生活保護費であるとか、あとは何とか手当とか、こういったものを積み上げたほうが、むしろ人件費よりも多くなって、いわゆる国で言う社会保障費というものです。これが予算全体を圧迫してきているというのが事実としてあります。これについては、今後、団塊の世代の人たちがもっと年をとっていくわけですから、こういった経費、社会保障費はどんどん増えていくと、こういう状況があるところです。

それから、吉沢職務代理者のほうの関係でのラスパイレス指数ですが、確かにおっしゃるとおりでございました。その中に、ラスパイレス指数というのは、国と地方を比べて、国が100とした場合幾つかなど、そういうことなんです。そうすると、例えば国の一定の金額よりも高い給料をもらっていれば、その分ラスパイレスは上がってくるわけですし、おっしゃるとおり、わたりが多いということも1つの要因としてあります。

もう1つは、最近若返っているところで、部長職、課長職も随分若返っているんですね。国の想定よりも若い人が課長になっていけば、当然、それもラスパイレス指数は上がっちゃうんですね。そういう作用もあって、ラスパイレスが上がっているというのが1つあります。

それから、その中でわたりというのはどういうことかといいますと、私が入ったころは昭和50年ですが、給料表が、1本でした。役職に関係なく、年齢で上がっていくという、通し号俸という給料表でございました。それが、今年の4月1日から、労使合意のもとに、いわゆる小金井市の独自表ではなくて、都表に移行すると。東京都の表に準拠すると、こういうふうになりました。したがって、当然、そのわたりの人たちは、その東京都の表よりも上に出ているわけですね。おっしゃるとおり、相当の人がいるはず。その人たちは、1年で解消する人もいれば、やめるまでにも解消できない人も実はいるんですね。ずっと解消できないと。そこで、今後の昇給は止めることにしたんです。止めたんですが、更にさかのぼってそれを引き下げるということは、なかなか労使関係・労働条件の中では難しいんですね。したがってこういうやり方によりまして解消するということなんです。解消の方向には進んでいるんですが、急に、ことしのあしたというわけにはなかなかいかないという状況になります。

- 吉沢委員       じゃあ、その方々は、今まで獲得した権利というか、結局、働いている役職よりも高い賃金を上乘せしてもらっているわけでしょうか。
- 松井委員       退職までもらうと。
- 吉沢委員       退職までね。人が作った制度ですから、これはここで……。やめるという訳にはいかないのですね。
- 企画財政部長   そうなりますと、労使の交渉事になっちゃうんですね。というのは、やはりそこで労働していた賃金を対価としていただいていたわけですから、もらっていた人の立場から見れば、今まで同じ仕事をして同じ給料をもらっていたのが、なぜ同じ仕事をしているのに下がっちゃうのと、こういうことになるわけなんです。そうすると、これはなかなか本人たちを説得するというのは難しいですよ。
- 吉沢委員       今まで仕事をして、役職を受けなくても、余分な給料が出ていた。公職を職業に選んだ以上は、一生懸命仕事をして、目指すもの、地域のためにこれぐらいのことをやらなければ、と働いているとは思うんですよ。もちろん、役職だけがいいわけでもなくて、実際に、地道に現場で働いていることがお好きな方もいらっしゃる。けれども、実際に給料を役職よりも高いランクで同じにもらうというと、職責を持ってやっている方はどうなるんですか。本当に市民のためにいい行政であってほしいし、いいお仕事をしてほしいと思ったときに、一生懸命やっていたらっしゃる方、それこそ夜中の——それがいいとは言いませんけど、夏休みも全然とらなかつたとか、あるいは夜遅くまで、何日もお仕事してたんだよというようなことを聞くこともあります。その方と結局同じ給料で、早く帰れて、犬の散歩をしたり、朝ジョギングをしたり、私はライフスタイルとしてとってもすてきなことだとは思うんだけど、同じにしちゃっているというのは、納得できない。働いている皆さんの中からも、おかしいんじゃないのとか、これは是正すべきじゃないのということが、文言が出てきてないのかな。
- 松井委員       吉沢さん、この前の行革市民会議で人事給与制度担当課長が出てきて、わたりの問題を議論して、それで、もう完全にやめましたと。ことしの4月以降はわたりが発生することはありませんということをおもんに約束してもらって、これ、議事録で載りますよねといったら、載って結構ですと、それはもうありませんからと。ただ、さかのぼって、わたった人を元へ戻せということは、これは僕は無理だと思ったから、質問はしなかったんですよ。わかってましたけど。それは無理なんです。
- 雨宮委員       そうなんです。それでね、もう1つだけ。連合の人が来て、ちゃんと今の話を労働組

合でやってもらわないと困るわけですね。だから、労働組合の問題、僕は労働組合じゃないんだけど、労働組合なんかやったことがあるんですね、大学で。わたりというのはしようがないんです。ポストがなくて同じ仕事をやる場合には、同じ給与出さなきゃならないということはあるんです、事実。つまり、役職をやらなくてジョギングをして、早く帰るといっただけじゃない、そっくり同じ仕事をして、役職が1つしかないから彼にやるけれども、もう1人の人間がそっくり同じことをやるけれども、そっちも出さなきゃならないということは現実にあるんですね。ポストはそんなに多くないんですよ。だから、わたりは必ずしも不合理ってわけでもなくて、そういう実質に合わせるという形はあり得るから、今言ったように、何もしない人間がとかっていう話は、こんなことは労働組合の人が言ってもらわなきゃ困るんです、こんな常識的なことは。

ただ、既得権というのはある意味では大事なんです。つまり、既得権をみんな失うと、皆さん、例えば年金か何かもね。その既得権を奪うというのは大変なんです、世の中は。だから、既得権はみんなが少しずつ大事にしながら、安定して豊かな生活をしなきゃならない時代に入ってきてるんですね。そこを間違わないほうがいいと思う。全部、どこでもここでも、その場、その場で競争して、頑張る人間というふうにやると、社会はがたがたに荒れるんです。

○吉沢委員      わかりました。先生のおっしゃること。私がなぜこんな話をしたかという、年金が下がったわけですよ。高齢者にしても、皆さんが入っている年金がね。それで、この問題を持ち出したんです。市民の人たち、あるいは国民でもいいですけど、民は年金が下がりましたでしょう。既得権がない人の生活もあると思うのですが。

○雨宮委員      だから、年金が下がったことに対して文句を言えばいいのであって、年金が下がったからこっちも下げろという議論はやめたほうがいいと思うんですよ。

○吉沢委員      そういう議論じゃないですよ。少しでも無駄を省こうということです。

○雨宮委員      そういう議論になっちゃうんです。で、社会ががたがたになるんですよ。だから、年金が下がるほうがおかしいんだという議論をしないといけないんですよ。そうしないと、世の中はみんながどんどん悪くなっているんだからみんな悪くならうみたいな話になると、すごい住みにくい世の中になるんですよ。それが1つです。

それから、つまり、労働組合の話もちゃんと議論して聞かなきゃいけないのは、そういう潤沢な人件費を使ったから、ここの教育、公教育はすごくいいんです。公立の教育がすごくいいのは、公立教育に携わっている人、働く人たちの待遇がよかったからなん



けど、前の市長の施政方針に従って僕らはそういうことをやっているんであって、それ以上でも、それ以下でもなくて、新しい市長に、前の市長の言ってることをおまえもやれとか、やらないとかという議論をするのはほとんど意味がないと思うんだけど、それはどうですか。

○市長

基本的には、行財政改革市民会議というのは、行革大綱の進行管理をやっている非常に重要な役割を担っていただいているので、行革大綱がある限り、同じ事業かどうかは別として、そういう点検機関というのは必要だろうというのが第一にあります。

それから、特に今年度は外部評価についてご議論いただいているわけですから、単なる進行管理を超えて、これから市民参加の評価制度の確立という、これも、行革大綱の7番目に載っているわけですが、それを実施していくということは、私は大事だろうなと思っているんです。

人員の話を上げると、この中に財政効果の一覧というのがあって、行政サービス改革で、こういうところを切っていくとか、あるいは民間にゆだねていくという考え方もあります。それが必ずしもそのとおり私はいまうまくいっていないと思うんで、うまくいっていない原因を探って、課題を解決しなければならないと。

同時に、先ほど、職員の増減のそれぞれの理由がありました。増える職員の増え方というのは、社会的な要請、つまり例えば、国の制度が変わったりして、どうしても、自治体としてこの職員が必要だという、そういう要因もありますし、基礎自治体固有の要因があって、こういう課題を抱えているからこの人が必要だと。それは、ある種、恒久的なものではないかもしれない。その課題が解消すれば、おのずと、また違う部署とか、その組織自体が多分なくなっていくだろうと思っています。それが、スクラップ・アンド・ビルドで、これは企業体であればどこでもやっていることだと。

できれば、本来は、早くその課題というものを解消して行って、違うところに新しいニーズがあるところに振り向けること。全体として、職員の適正規模というのがあろうと思うんです。それは、多分、1人当たり職員数というところに求めていくのか、あるいは今のところそれがメルクマールになっているわけですが、あるいはもっと違った考え方で、豊かな公共サービスを実現するためにもっと人を増やすと、それはなかなか認められないと思いますけれども、そういう意見も持つ人だってあると。

必要なのは、先ほどの市民満足度にもつながってくるんですけど、我々はこういうサービスを受けていると、これだけの費用があって、対価を払って、その満足なサー

ビスを受けていると、それは、施設であり、人であり、さまざまな要素だろうと思って  
おります。そうした総体の中で、職員の規模というものもおのずと決まってくる。

ただ、何とかの法則じゃありませんけれども、ほっておくと肥大化していくという懸  
念は常にあるので、それをだれかがきちんと点検しなければならないということだと思  
います。

先ほど、雨宮さんがおっしゃった小金井の教育の高さ、公立教育の高さというのは、  
ある種、すぐれた教職員の方を評価できているというところもありますでしょうし、学  
校それぞれで授業内容についていろんな研究努力をされているということもあります。

それから、現在、民間委託について行革大綱の中で、俎上の上の学童についても、  
これは、いわゆる保護者の満足度というのは極めて高い、子どもたちが3年間やめる率  
が多摩の中では最も低いという、そういうところになっています。

そういうもろもろのことをいろいろ考えて、おそらく、今後は、私は進めていかな  
くはならない時期に入っているんだらうなという、そういう基本的な認識でいます。

○会長 今の教育ということであると、市長の言われる子育てタウンとかそのうちに整理して  
おこなきゃいけないのは、教育問題は教育委員会、教育委員会イコール小金井市の行政  
体系とは別であると。だから、一度その問題でご注文したことがあるんですけど、これ  
は、残念ながら、小金井市ではいかんともできませんという話になっているわけで、そ  
ういう点でいくと、厚遇してるしてないといってもちょっと体系が違うんで、あまり、  
高給にすれば教育はよくなるということとはちょっと違うところだけ、ご指摘し  
ておきたいと思います。

○松井委員 それと、今の市長の発言の中で、必要な組織には人を集めてもプロジェクトをやる。  
それが、役目が終わったらスクラップすると、スクラップ・アンド・ビルドと言われた  
んですけど、非常に大変な発言でいいなと思うけど、実際は今の組合との対応からい  
うと、言うべくしてできません。ほんとに。

○雨宮委員 いや、僕は、だから、前のときにも言ったんだけど、組合も当局もごちゃごちゃ中  
でやらないで、組合も組合として絶対これは必要だという議論をちゃんと市民の前に出  
すし、当局は当局でちゃんと出して、市民の前でちゃんと出して、どちらに理があるか  
ということをやするような議論の場を作ったほうがいいと思います。

自分が前から、ここしかやらないから、ここ以外動かないなんていうことはやっぱり  
理不尽なんですよ、もし本当だったら。多分、ほんとそう言っているかどうかは難しい

と思うんです。行くと非常に不利に、今までの条件が悪くなるからとか、この条件がよくなればなるとかという話になっているはずだと僕は思うんだけど、いや、わかりませんよ。でも、そのこともちゃんと市民の前で公然と、それこそ情報公開して決めればいいと思うんです。そこは何回もはっきり言ったほうがいいと思う。

さっき言ったわたりの問題についてもちゃんと言ったほうがいいと思うんです。既得権が何で悪いんだというふうにちゃんと組合は言うべきだと思うんです。既得権がなかったら、人生ものすごく不安定になって大変なんだという議論は、説得力ありますからね。だけど、こんな格差があるときにそれはけしからんという議論もあっていい。しかし、どっちにしたらいいんだという話は、市民が決めればいいわけでしょう。そこは。

○吉沢委員           そう、まさにそのとおり。それを言いたい。どこで議論を。

○雨宮委員           そうそう。だから、どちらが悪いとか、いいかという問題もいいんです。こちらが悪い、いいということもちゃんと公然とね……。

○会長               いや、私ども、こうやって6年間も市民会議やっていると、労使の交渉があるからちょっと難しく、と言われて、最初のうちはそうかなと思ったんですけど、その部分の改善ということは別途やらないと、どこかが楽してもうかるというような状態が続いちゃうんで。

○雨宮委員           あるいは、楽してもうかるという評判が、どこかで立ってしまうということだと思うんですよ。それは、ほんとかどうかはまた難しくてね。

○吉沢委員           そうです。そして、今、市民協働とか、いろんなこういう市民に対しても投げかけられていることが多いわけです。そうすると、市民が汗をかこうかなとか、力を出そうかなと思ったときに、足を引っ張る要因にもなると思うんです。盛んにNPO法人でとか、あるいは委託事業でとか、やれるところは市民のほうにも担ってほしいというけれども、財源というものが、ちゃんと市から落ちてくるものだけじゃないんです。市民の中で創意工夫したり、お金の問題、マンパワーの問題、本当にいろんなことを市民が提供してやっていく状況が出てきている。一生懸命やっていこうと言葉かけをするときに気になるのが、行政の無駄遣いとか、ラスパイレスが、小金井がどうのとかの記事なのです。

○雨宮委員           何回も言いますが、ラスパイレス係数も高いからけしからんなんていうこともまた単純なんです。アメリカで調べてみると、いいところはものすごく高いんです。高いところはいいところで仕事もしているんです。そういうことも含めて、ラスパイレス係数が高ければけしからんとかという議論の仕方自体も議論しなきゃだめなんです。そうしな

いと、ラスパイレス係数が高いから、あそこはけしからんから、働いてなくていい思いをしているなんていう、そんな話ばかりになると、みんな元気なくなっちゃいます。

○吉沢委員　　ですから、今、雨宮先生がおっしゃったように、情報というか、顔が見えるところで、意見の交換、あるいは知らないところを、そのままにせず話し合うことが大切だと思います。

○雨宮委員　　まあ、マスコミ各社を含めて、多分、市長も知っていると思うけれども、傾斜があるわけですね。ラスパイレス係数悪いとか、地方公務員をたたけば、評判がよくなるのかというマスコミの事情があるわけ。だから、それに乗っからないで、自分で判断しなきゃだめで、そういう高い水準の市民でない、もたなくなっているんですよ。三鷹とか、武蔵野とか、小金井の段階は。何か、公務員をたたけば済むみたいなレベルが終わっちゃっているんですよ、本当は。そのレベルの次の段階で、今、議論しなきゃならないところになっているから。

○吉沢委員　　私は、新聞というのは情報を得るものだと。

○雨宮委員　　信用しないほうがいいですよ。(笑)

○吉沢委員　　子どものころから新聞を見て考えるという習慣が出来てますからね。市民協働ということが今言われています。そして、そうしなかったら、回っていかない財政なんですよ。

○雨宮委員　　そうそう。

○吉沢委員　　市民の力を出していただくためには、そのところをきちんと説明する必要がある。説得する部分というのは、行政も一生懸命やっている。職員も一生懸命働いてくれている。

○会長　　職員のやる気と市民のやる気と両方満足しているとはちょっと思えない状態はありますから。

○吉沢委員　　いろんなことに取り組んでいくときに、市民が納得するような状況がないと説得しづらいですね。今日は雨宮先生にいろいろ教えていただいた。

○雨宮委員　　いやいや、いやいや。ちょうどよかったと思います。いろんな議論ができて。

○会長　　それでは、この市民会議として、徐々に議論のソフトランディングを視野に入れながら議論をしていかなきゃいけないわけですので、そういう意味合いでは、先ほど、ご説明いたしましたこれまでの検討結果を含めて、後でまとめていきたいと思いますという趣旨と内容については、大体よろしゅうございますか。あとは、実際に議論して、内容として



とはいっても、何も、小金井市民に大々的に言いふらして、それで、心理的に不安をあおるとか、そういう必要は全くないと思ってまして、ここでのご提案は、市役所の事務局に問い合わせたところ、今のところは、小金井市としては、直接、対応することは何ら考えておらないというんですけれども、たまたま、ちょうど2月後に防災の日というのが、9月1日、関東大震災を記してあるわけなんで、そういうときに市の防災会議をやるとか、あるいは防災担当者が各部署に、名目的、あるいは実体的かちゃんと名前が出ているはずですから、こういうときには、震災マニュアルを今出せといたって、おそらく、20人中ぱっと出せる人は1人いるかどうかぐらいの感じだと思うんですけど、それを、いついつまでには読んでおいてくれということをして、それで、防災会議をやるとか、そういうようなささやかなアクションでいいけど、何らかアクションをとっていただいたらいいかなと。これも、行財政改革市民会議としては、やや越権のような気がしますけど、よく考えると、市民のほうから多少なりともこういうことを提起するというと、この件に関してほかに審議会なんかでチャンネルはあまりないんで、行政のアクションとして、やっていただきたい。本当にくだいんですけれども、市民の方を無用に不安がらせるような大げさなことをやっていただくというのではなくて、行政サイドとして、今、東北なんかでも、地方自治体が、存在しているとしていないだけでも大違いが、不便を生じたりいろいろあるわけなんで、これをやれとかっていう意味じゃなくて、検討いただきたいというぐらいのニュアンスになるんですけど、まずは、ここの委員の方にお諮りして、こういうアクションをとってよろしいかどうかと。それから、もし、よろしいとなれば、とりあえずは、口頭ですけれども、ぜひご検討くださいという段取りなんですけれども、いかががでしょうか。

○松井委員 立川、八王子なんていうのは、なかなか地盤がよくて、あっちのほうへ移りたいなんていう人が増えているという話を聞いたばかりなんだけどね。

○会長 それで、この図でいうと、小金井は、「立川市」という太い活字がありますけど、この右側へびゅーといった、地図の外れのところに、こきんちゃんじゃないけど、「小」と「金」だけ出ていますね。

○林委員 ちょっと外れると、随分、地震弱くなるんですよ。

○会長 でも、5キロぐらい……。

○林委員 断層の上、直上の、上だともものすごくもろいんだけど、ちょっと外れると、大分弱くなるんですよ。

- 会長 ずれてもらえると思うんですけどね。
- 雨宮委員 先程の会長の話だと、ちょうど一番よく揺れるところじゃないかという。
- 中野委員 東京都で大震災で起こった場合の本拠地が立川の防災センターでしたよね。活断層の上にあるという、すごいところにある。それも何なんでしょうね。
- 吉沢委員 10月の29日、防災の総合訓練がありますでしょう。小金井公園で。
- 企画財政部長 毎年8月の最後の週に、市内を4つに分けた順番で各小中学校でやっていたんですけど、今年は小金井公園で、多摩地区全体の防災訓練があるんです。これは、10月の29日でしたか、土曜日でしたね。土曜日に小金井公園を主会場にしてやるということになっているようです。というのは、8月中だと、まだ、応援隊が震災地に行っていて、人数もそろわないとか、いろいろ諸般の事情もあるようでございます。ですから、その前に、必ず防災会議というのを市でもやっているんです。年に2回ぐらいたしかやっていたと思います。ですから、通常、防災訓練の前にやっていたんですが、多分、今年は防災会議はもうちょっと後ろにずれ込むんじゃないかと思われま。
- 会長 いや、私も、堅くね、申し入れ書だの、申請書だの、そういうような意味合いで言っているわけじゃなくて、そういう防災会議のテーマとして、特に報告事項なのか、何々事項と1本入れといていただくとか。
- 特に一番基本となるのは、役所の中で、マニュアルやなんかはどこにあって、おれのところは何をやる係なんだというぐらいはきちんと頭に入ってる入ってないで随分違うと思うんで。
- 企画財政部長 そうですね。今回の大震災の経験を経て、隣近所の助け合い、こういったものが非常に大切だということで、町会、自治会の取り組みであるとか、あるいは自主防災組織が各地域にございますが、その組織が重要だということなんです。まだ、組織率が極めて低いんです。これを上げようじゃないかと。障害者の方、いわゆる災害弱者、こういった方たちを助けるにはどうしたらいいかということで、今、福祉部門を中心に動きが始まっているところなんです。それを、踏まえて、地域防災計画の本体の見直しもやるという流れにはなっているんですけど、なかなか進まないというのが事実なんです。流れとしては、そういう流れがござい。
- 市長 小金井市防災計画というのは、2つの地震想定に基づいてあります。これは、国、それから、東京都の防災会議の想定を受けたもので、1つは、多摩直下型であります。もう一つは東京湾で起きたもの。それぞれでこういうマグニチュード、こういう地震と、

そして、死者がこれぐらい出るだろうという想定があつて、その想定のを減災ということであるべく半分にしようということであります。だから、防災計画全体の見直しというのは、その想定を変えなければならないという国の中央防災会議等でそういう判断が示されているのですが、今、小金井市がやろうとしていることは、3月11日に起きたさまざまな事象、もしくは経験を踏まえて、より実効的、実際的なマニュアルとか、その計画を補うような、そういうものを逐次作っていかうじゃないかというふうに進めております。

それから、もう一つ、部長が申し上げたのは、災害時要援護者という高齢者の方、障害者の方、あるいは小さいお子さんを持っている方、それは入らないかな、そういう方に対して、では、避難所までだれが誘導していくのかという、そういうプランづくりを今年度モデル地区を決めてスタートしていかうというふうに進めております。

ただ、会長が提起された立川断層というのは、わりと今評判になっている話でありますから、これをどう扱うかというところはちょっと検討の余地があるかと思えますけれども、これによって、またさらに、市民の関心、問題意識は高まる契機となりますね。あまりあおってもいけませんけれども、そういう関心を高めるための1つの情報提供等にはなるのかなという、そんな印象を持っております。

○吉沢委員      これは、どちらに書いてあるんですか。

○会長            これは、インターネットの中に。

○吉沢委員      これ、なかなか。

○会長            わかりやすい。

○吉沢委員      ないんですよ、こんなわかりやすいのは。もうちょっと、断層の部分が小さかったり。初めて、こんなにわかりやすい図を見ました。

○中野委員      毎年ゴールデンウィークの頃に健全育成では、地区ごとに子ども週間行事と題して催しを行います。各地区、何百人もの子供達を集めて行う行事なので、万が一地震がまた起こった場合どうしたら良いか対策を立てておかなければならない、と言うことで役員達と話し合いマニュアルを作ることになりました。想定できる項目を考え独自の者は作りましたが、その際相談に行った地域安全課にはマニュアルみたいなものが無く非常に困りました。こういった災害時に対してのマニュアルを作っていただけたらありがたいと思います。

○企画財政部長   余談であります。家具転倒防止の器具を無料で3年間で配っているんです。今年が

最後になりますから、ただですから、しかも、65歳以上で自分で取りつけられない場合は、事業団のシルバーのほうから行ってつけてもらいますから、これをぜひ利用していただいたほうが良いと思います。まだの方は、どうぞ、無料ですから。

○会長           取りまとめますと、この件については、市役所の側でもテークノートはしていただいたということで、どうせいこうせいということでは現在はございませんから、何がしかやっていっていただく。

それから、先ほどの行政評価の取りまとめについては、基本的には、事務局のほうで、まず、第1稿を作ってもらおうと思っておりますが、私も、それから、職務代行者の吉沢さんとか、あと、また、作成の途中で、お手伝いいただける方がいれば、大ウエルカムでございますので、たたき台を作って、それで、10月に再度検討するというふうに考えております。

## 6 次回の日程について

○会長           ということで、次回での予定については今言ったことでございます。あと、事務局から、何か積み残しございますか。

○事務局           一応、会長のほうから、次回の会議の日程の話が出ました。定例会がまだ日程が決まっておきませんので、9月から10月上旬、中旬あたりまでございますので、基本的には、10月の後半といってもまだ定かではないんで、11月上旬、こちらのほうが確実に、そういう議会の合間ということで時間はとれるかなと事務局的には思っておりますが、いかがでしょうか。この場で次回の日程をお決め……。

○会長           ちょっとじゃあ。

○事務局           また、調整して、委員の方にご都合を聞きながら詰めていく形でよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○会長           じゃあ、そうしましょう。

○事務局           じゃ、大体のイメージとしましては、11月上旬で調整をさせていただきたいと思っております。

事務局は以上でございます。

## 7 閉 会

○会長           本日も実り多い議論をいろいろやっていただきましたが、あと、2回ございます。大

いに頑張って提言の中に有意義な内容をいろいろ盛り込めるよう、やっていきたいと思  
います。

それでは、これで、本日の市民会議は終了とさせていただきます。どうもありがとう  
ございました。

— 了 —